

2010 年度「市民公開講座への助成」完了報告書

**第 7 回多摩胃ろうネットワーク市民公開講座**

**「胃ろうをもっと知ろう」**

**NPO法人多摩胃ろうネットワーク**

**理事長 宮脇 誠**

〒206-0036 東京都八王子市堀の内 469 番地がらんが 416 号

2011 年 3 月 25 日 提出

## 1. 開催プログラム

日時：2011年2月26日（土）13時30分～16時30分（受付開始13時より）

会場：八王子労政会館

東京都八王子市明神町3-5-1（JR中央線八王子駅下車 徒歩10分）

座長：数井クリニック院長 数井学先生

講演1. 胃ろうについて

永生会南多摩病院 消化器外科部長 田中譲先生

講演2. 皮膚トラブルについて

永生会永生病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 串田真紀先生

## 2. 当日スケジュール

13時00分 受付開始

13時30分 賛助企業の紹介

14時00分 開会挨拶 多摩胃ろうネットワークの紹介 宮脇誠理事長

14時07分 座長の数井学院長より講師紹介

14時10分 「胃ろうについて」田中譲先生の講演

14時50分 質疑応答

15時00分 休憩・展示ブース見学

15時20分 「皮膚トラブルについて」串田真紀先生の講演

16時00分 2演者との質疑応答

16時30分 閉会挨拶 アンケート

## 3. 結果

参加者総数 120名

一般市民は17名だったが、介護スタッフ、介護施設管理者、ケアマネージャー、訪問看護師、病院管理者、医師、看護師、ケースワーカーなど、胃ろうに関係する多職種の参加があった。

2007年から実施している市民公開講座で今回7回目となるが、一番多くの参加者だった。

途中で帰られる方がおり、退室時に理由を聞くと、「ヘルパーが帰る前に帰宅しなければならぬ」「預かってくれている所で延長料金かかってしまう」「これから仕事・・・」との話が聞きました。

質問事項は、現在胃ろうを持っている方に関わっている家族や介護者の立場の方、これから胃ろうを作るか否か検討されている方からの、現実的な目の前の問題に解決策を求めているものが多く聞かれた。

#### 4. 考察

八王子市での開催は、今回が2回目となる。胃瘻を栄養管理の方法のひとつと捕らえるか、食事が出来ない人の延命治療ととらえるか、医療業界の中でも議論の分かれるところだが、胃瘻ケアは食事の注入を含めて医療処置の一部と位置づけられており、痰の吸引と同様にケア対象者が限定されている現状がある。そのため、ケアの具体的方法やトラブル対応などに情報不足や誤解があり、胃瘻造設前後の患者にとって孤立しやすい療養環境であることは、悲しい事実である。

今回、多くの参加者を得た背景には、地域住民の療養生活を支えるかかりつけ医の方々の働きかけが大きく影響している。往診や施設の嘱託医をされている先生方では、胃瘻を取り巻く療養環境に対して日々様々な問題に直面されており、情報不足を解決することが急務と考え、積極的に声掛けを行ってくれた。

演題はいずれも現場密着型の内容であったため、講演後の意見交換も活発に行われた。また、賛助企業の展示ブースに、実際のチューブや栄養食のサンプル、栄養管理のパンフレットなどを置き、実物を見てさわって味わって感じてもらうことは、情報不足を補う上で効果的な方法のひとつとなった。

#### 5. まとめ

無料開催ができる市民公開講座は、患者家族だけでなく、すべての人にバリアフリーの環境で情報を提供できる大切なイベントだと考えている。

胃瘻患者が利用できなかった介護保険サービスにも、少しずつ理解者が増えてきている。ネットワークの友好的な輪を広げていくために、今後も市民公開講座を継続開催していきます。